

## 今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 14 章 1~14 節>

### ①弟子たちにされた主イエスの告別説教を読む理由

ヨハネ福音書 14~16 章は、イエス様が十字架にかけられる前に弟子たちに語られた告別説教です。弟子たちはイエス様がいなくなると、どうしていいかわからなくなりました。その彼らのためにあらかじめ励まされたのです。では、どう励まされたのか。何を言われたのか。それを聞き取ることがここを読むことの目的です。なぜなら、今の私たちも、まさにイエス様が目に見える形ではおられない中にあるからです。

### ②主がおられなくなることにプラスの内容を見出すべし！

イエス様は、「私の父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか」(2)と言われました。主が去られることには理由があるのです。それも、私たちにとって益となる理由です！「主のなさることは必ず私たちにとって益となる」、信仰者が動揺する中でまず思うべきことです。

### ③私は道であり、真理であり、命である。この言葉は何なのか？！

イエス様は、「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことはできない」(6)と言われました。すごい言葉です。誇大妄想として退けるか、あるいはそのまま受け入れるか、その中間はない言葉です。もし言われていることが真実であれば、イエス・キリストは私たちにとって確かに道であり、真理であり、命となるでしょう！では、どうしてこのことを信じることができるのでしょうか？

### ④イエス・キリストの十字架に神の業を見る！

微積分や確率論の基礎を築き、「パスカルの原理」を発見したパスカルは、「人間は考える葦である」で有名な「パンセ（瞑想録）」の著者でもある篤い信仰者でした。彼は、信仰を、持つ方に賭けて損にはならない「賭け」に例えています。しかし、その信仰は決していい加減なものではなく、天才的な数学者・物理学者・哲学者としての論理においても適ったものとして理解していました。それはイエス・キリストの業(11)、私たちの罪の赦しのために神が御子を犠牲にして下さった神の事実、打たれた時に、すべてが理に合っていることを了解したのです！この御子が語られる内容をしっかり聞き、その上に私たちの生き方を建てて進めて行く、これ以上確かで、これ以上平安な生き方はないのです。主は去られた、しかし、今も聖霊において共にいて下さる方なのです！